

【各チームのアウトプット】

ワークショップ当日は、図書館関係者から一般の利用者まで、全国から幅広い参加者（計30名）を迎え、「大学図書館」「公共図書館」「学校図書館」の館種ごとに、各2グループ（計6グループ）に分かれてワークに取り組んでいただきました。

館種別ワークショップ

学習者の視点から考える 10年後の図書館

公共・学校・大学図書館編同時開催！
—With ポプラ社ほか

日時：2020年11月8日（日）10:00～12:30





ワーク 1

10年後の学習者について考えよう

10年後の学習者の視点に立って、学びについて「思っていること・感じていること」「見ていること」「話していること・やっていること」「聞いていること」の4つの項目を具体的に書き出して、一つの図にまとめることで、10年後の学習者の解像度を高める。

①学校図書館チーム

思っていること・感じていること

価値観 主な関心ごと 不安 希望

友人や上司、
有名人や政治家は
何を言っている？

自分の考えを
まとめて話す
ように求める

親からは校区
外の学校へ行
くように促さ
れる

知らない事を
YouTubeで調
べる

主体性を求め
る様に

公共の場での振る舞い
他者に対する言動
日常生活習慣

聞いていること

将来の夢、不
安

自分の好きな
ことを大切に
している

子ども達が考
えている子と
はあまり変わ
らない



見ていること

身の回りの環境
友人や家族の行動
市場の変化

学び方が多様
になっている

デジタル化に
よる地域格差
がなくなる

選択肢が増え
る

デジタルによ
る地域格差、
教育のレベル
が変わる

絵本にタブ
レットをかざ
して3Dで飛
び出してくる

学校が何をし
ているのか可
視化できるよ
うになる

自分の興味の
対象にのみ関
心がある

紙媒体とデジ
タルのコラボ

好奇心の範囲
が狭い

デジタル教科
書の活用

話していること・やっていること

嫌いな事、し
たくない事は
しない

めんどくさい
事は逃げる

ホームスク
ールに通って
いる

リモートで授
業を受けて
いる

オンラインで
他の学校と繋
がって活動
してる

学び方が多様
になっている

オンライン
ゲームでのコ
ミュニケー
ション

デジタルを学
習に費やして
いる子が少な
い

本を読むより
も動画を見る

Youtubeで勉
強している

【10年後の学習者イメージ】

たくさんの言葉、五感を刺激するような読書や遊びなどの実体験を通して、成長を遂げた子ども達がベースとなっていて、そのうえで、学びの形が多様になっている世の中で、色々なところと繋がりがながら、自分に必要な情報を書籍やオンラインから得るための方法をマスターしている学習者

②学校図書館チーム

思っていること・感じていること

価値観 主な関心ごと 不安 希望

友人や上司、
有名人や政治家は
何を言っている？

先生の言っ
ていることは本
当か？

一方的に教え
られている

学校関係者以
外は、図書室
に容易に入れ
ない

青春映画など
ではいまも登
場している

学校司書のか
たによれば最
近図書館で騒
ぐのを叱らな
い？

10代だって、
静かに心を整
えたい。図書
室で

習慣を身に付
けるにはをか
んがえていま
いる

図書館の中
ではロゲンカ
や暴力は生ま
れにくい

借りた本を返
すのを忘れて
しまう

もっとスペッ
クの高いPCが
ほしい

先生がいな
いから 好きに
できる

受験

うんこうんこ
うんこ

↑男子さい
てー

聞いていること

見ていること

身の回りの環境
友人や家族の行動
市場の変化

話していること・やっていること

協働学習・AL

電子書籍を借
りる

学校のPCから
エロ動画視聴
および違法ダ
ウンロード

校区ごとの学
校(公立)にと
られない

学校に通わ
なくてもいい

宿題をウィキペディア
からコピペしたらば
れた

教科書ごとの
練習問題の答
え共有裏サイ
トを活用

アプリで勉強

公共の場での振る舞い
他者に対する言動
日常生活習慣

【10年後の学習者イメージ】

環境は変わるけど、こどもはあんまり変わらない？ その環境次第なところで変化するとしても、そこは考えるのが難しい。デジタルな方向にはいく。

GIGAスクール

オンライン授
業

「紙と図書館
とかもういら
ないだろ」

全ての小学校
で1人1台PC

オンライン投
票

ゲームを推進
する教育者も
増えている

「やっぱりPC
を与えると脳
に悪影響が」

学校図書館の
設備が地域に
よって違う

学習環境は保
障されている

SNSで知り
あった人に
会ってはいけ
ません

図書室の本を
整理する人が
いないから、
親がボラン
ティアしてい
るそうだ

携帯電話料金
を安くする
とは、スマホ
の普及を飲
んでいるのか。

タブレットは
家で買って持
ち込めってい
うけど買えな
い子がいる

先生のPCの画
面の横に貼っ
てあるパス
ワードをメモ

オンライン授
業の準備、家
からのアクセ
ス

カフェで勉強
している学生
をよく見る

天井まで本棚
があるよう
な、異次元っ
ぽい図書館が
増えた

自分の学校以
外の学校も見
られる

電子書籍を使
う

親の在宅勤務

オンラインス
クールに通う
友だち

気持ち悪いDM

③公共図書館チーム

思っていること・感じていること

価値観 主な関心ごと 不安 希望

友人や上司、
有名人や政治家は
何を言っている？

転職サイトは
どこに登録す
るといい？

デジタルな設
備の側面ほし
い

役所の手続き
めんどい。ま
だ来庁だと？

マンションの
自治会ってど
うやって入る
のかわから
んー。

仕事の効率性
を上げたい

複数の世代が
渾然一体とす
る社会

写真SNSに
アップしよ
う。

今週の課題ど
うまとめよう
かな。

図書館にはい
ろいろな導入
口がある

翻刻も気にな
る

今日のごはん
どうしよう？

論文の本文ま
でスラッと読
める便利なサ
イトないか
なー。

Wikipediaの
記事を編集し
たい…

しっかり調査
したいのに出
来ない

オンラインの
スケジュール
が詰まってい
る…。

新聞社のサイ
トはすぐ記事
が消えるな
あ。

Twitterはあ
るよね

クックパッド

インスタは飽
きてくる？

Wikipedia

論文検索サイ
ト

オンラインイ
ベント

NDLデジタル
化資料

図書館の設
備って脆弱

みんなで翻刻

テレビ？あん
ま見ないね

催事しかして
いないの？

転職サイト

Netflix

イベント・に
ぎわい楽しそ
う

聞いていること

見ていること

身の回りの環境
友人や家族の行動
市場の変化

話していること・やっていること

ゴミは分別す
るんやろう。

ウォーキング
でもするか
あ。

オンライン飲
み会

仕事

子育て

Wikipediaの
編集

SNS

人への当たり
がきついな
あ

若者は借りて
帰るだけ

公共の場での振る舞い
他者に対する言動
日常生活習慣

【10年後の学習者イメージ】

学習者だけの？「学ぶ」ことの前提って
なんだろう？
（意識的な学び・無意識な学び）

学習の本質は変わらない
利用者にとっての「学び」とは？
地域は子どもらの成長（学び）と連関する

④公共図書館チーム

思っていること・感じていること

価値観 主な関心ごと 不安 希望

友人や上司、
有名人や政治家は
何を言っている？

勉強したい

体力がなくな
っている

老後を考えな
いといけない

仕事

蔵書数は少な
くていい

本を読める
「場所」が増
えたらいい

評価項目の変
化。蔵書数か
ら居心地の良
さへ

聞いていること



見ていること

身の回りの環境
友人や家族の行動
市場の変化

オンライン化

地元重視

眼鏡型スマホ

ネット環境

時間に縛られ
ない

電源のあるPC
席が欲しい

場所に縛られ
ない

話していること・やっていること

ワークショッ
プ

公共の場での振る舞い
他者に対する言動
日常生活習慣

【10年後の学習者イメージ】

- 航行図書館は、本だけでなく、いろんな人が集まって活動できる空間になる
- 地方の学習者地元に根ざした図書館もほしい
- オープンでアクティブな学習者
- 世代間の交流

⑤大学図書館チーム

思っていること・感じていること

価値観 主な関心ごと 不安 希望

友人や上司、
有名人や政治家は
何を言っている？

地域の人びと
の課題は

もっともっと
DX

スマートシ
ティ化

リアルな昔は
よかった的な

依然として
ジェンダー問
題解消

大学淘汰の時
代がはじまる

大学はリアル
からバーチャ
ルへ向かうの
では

大学図書館を
地域開放希望

海外の大学講
義を受講

G I G A ス
クール世代

掘り下げ型の
学習

課題解決、意
識高い系

公共の場での振る舞い
他者に対する言動
日常生活習慣

聞いていること



見ていること

身の回りの環境
友人や家族の行動
市場の変化

話していること・やっていること

権利▷長野図
書館ラボの取
り組みに参加
はじめました

他人にとても
気を遣う

地域社会の支
えあう仕組み
づくり

紙で育った子
とちがう

モラルの低下
または新しい
モラル

VRなど感じ方
の変容

1人で過ごす
時間が増える

かなり格差が
拡大している
かな

ちょっと寂し
い・孤独

今よりは希望
をもっている

何かすごいこ
とをやりたい
意欲

「場」の役割
が変化

国の治安が不
安

図書館の形態
としては残ら
なくなるかも

希望を持って
いる

格差が広がる
可能性がある

学習するひと
・しない人が
分離する

意識高い子が
増えている

1人暮らしが
増えている

スマホが主流

テレビはみな
い

ネット漬け

情報プラット
フォームが一
つに

子を取り巻く
空間がアクセ
ス可能になっ
ている

友たちと会っ
て話すのは好
き

通学しなくて
もよい

係わっている
NGOの支援地
のこと

本を読む機会
を増やす

出版は現状と
かわらない

本と図書館か
ら情報セン
ターへ

場所の意味の
変化

ネットワー
クの場

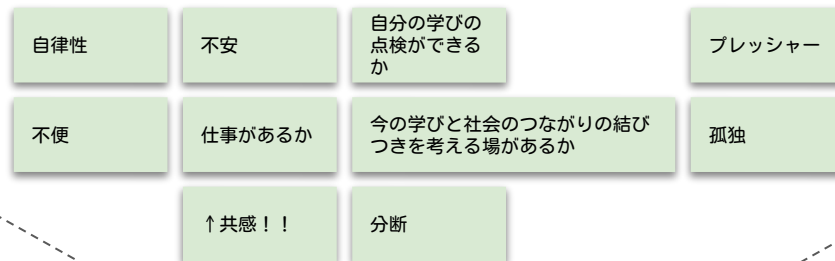
【10年後の学習者イメージ】

デジタルネイティブ・G I G A スクール世
代
格差社会（学習できる人・できない人）の
孤独・間をうめる。
意識高い課外解決型の学びと掘り下げ型の
学び

⑥大学図書館チーム

思っていること・感じていること

価値観 主な関心ごと 不安 希望



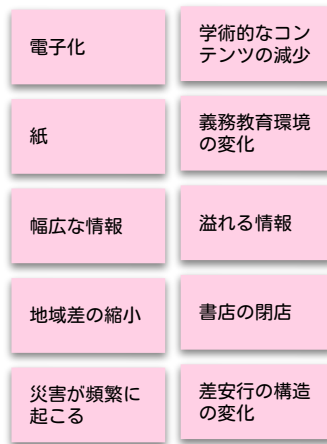
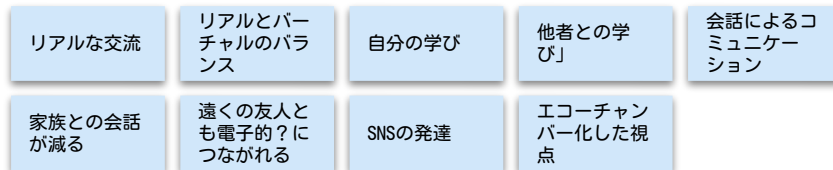
聞いていること

見ていること



身の回りの環境
友人や家族の行動
市場の変化

話していること・やっていること

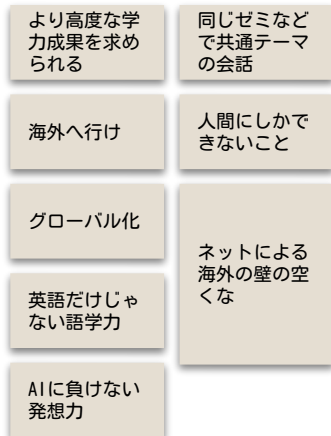


【10年後の学習者イメージ】

【現在】選択肢がたくさんある→不安

【未来】選択肢を自主性をもって決められる人、正解探しではない学び、AIがいる環境

友人や上司、
有名人や政治家は
何を言っている？



公共の場での振る舞い
他者に対する言動
日常生活習慣



ワーク 2

10年後の学習者を支える図書館について考えよう

1. ワーク1で見えてきた10年後の学習者像を踏まえて、その学びを支える10年後の図書館の在り方や機能についてイメージを膨らませる。
2. その実現に向けて、図書館の活動を「促進するもの」「阻害するもの」「今後のリスク」「解決策」を、それぞれ書き出していく。

情報リテラシーについては司書が一番詳しい

司書の待遇アップ

教育委員会、学校の学校図書館理解が進

GIGAスクール構想に学校図書館の文言が入れば状況が変わる

学校図書館のネット環境を整える

ICT管理職人材の教育

学校司書が専門性を活かしていない

教員を育成する上で学校図書館の活用方法を教え込む

司書のICT講習の支援

司書の研修を推進していく

ICT支援員と図書館司書が連携し、学校図書館の将来を描く

子どもへの情報リテラシー教育の充実

学校司書が主体的にICTの理解を深める

Parachute
阻害するもの

GIGAスクール構想から学校図書館が抜け落ちている

図書館で働く方の人材不足

食べていける職業としてなり立っていない

ネット環境のない図書館

教育委員会、学校の学校図書館に対する理解不足

人材配置の問題

半数以上の先生が司書の活用方法が分かっていない

Engine
推進するもの

Bridge
解決策

Abyss
リスク

子ども達が自由にインターネットに触れることができる

閲覧の履歴がプライバシーの問題として捉えられる

学校図書館とICT教育の連携を理解出来てない先生、教委

子ども達に必要な情報リテラシーがない

不透明さ

①学校図書館チーム

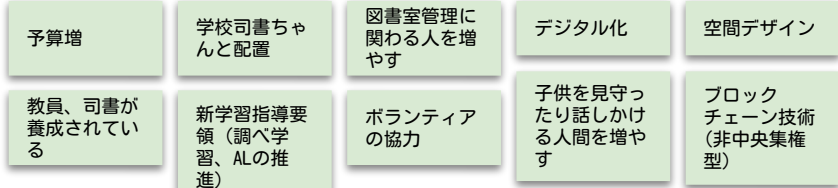
【10年後の図書館】

サードプレイスとしての学校図書館という存在は変わらず大切
学校図書館が情報教育の中心にあるべきで、子ども達の学習を支えるだけでなく、教員を支援する(結果的には子どもの支援に繋がる)存在になっている

10年後の学校司書とは？
ICT知識のある先生と図書館司書が連携して子どもたちの教育を考える

【10年後の学習者イメージ】

たくさんの言葉、五感を刺激するような読書や遊びなどの実体験を通して、成長を遂げた子ども達がベースとなっていて、そのうえで、学びの形が多様になっている世の中で、色々なところと繋がりがながら、自分に必要な情報を書籍やオンラインから得るための方法をマスターしている学習者



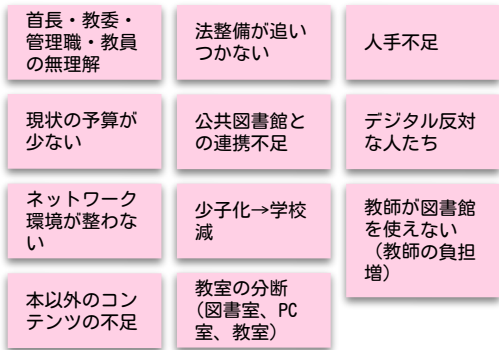
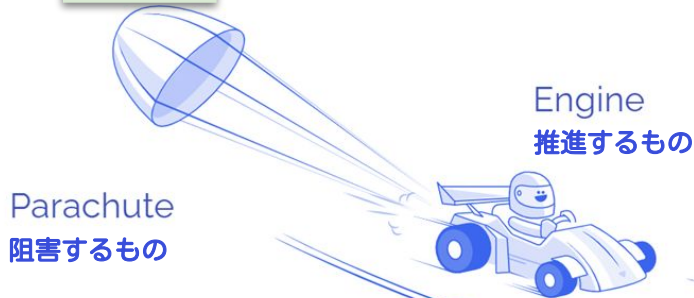
【10年後の図書館】

●主体的なこどもの関心によりそう図書館。学校そのものがなればよい（そのために養成課程も変わらなければ）

●「自分で選ぶ」ために、具体的な本が並んで、出会いの場所。

●先生への学習支援が必要

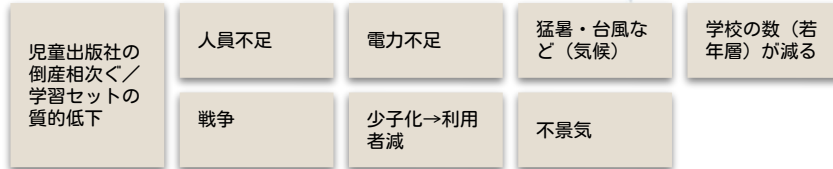
●すべての人のまなびの場。地域開放による学びの機会の場



教員が探究や図書館やICTなどの経験がない

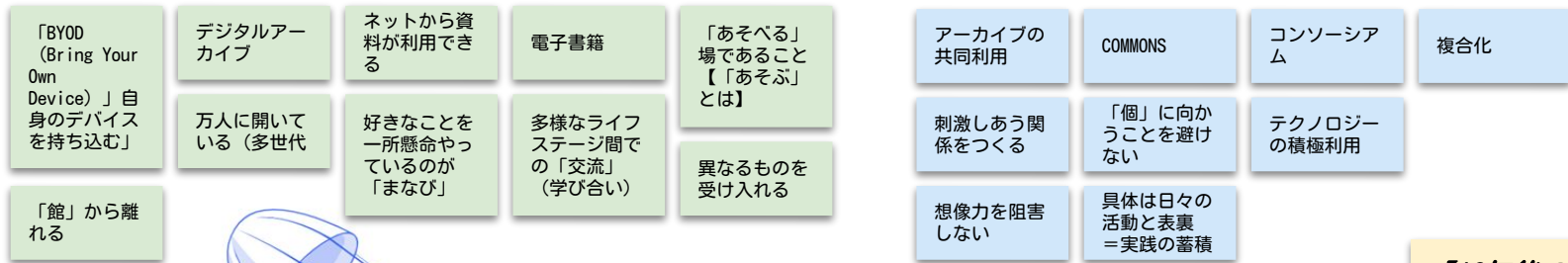
Abyss
リスク

②学校図書館チーム



【10年後の学習者イメージ】

環境は変わるけど、こどもはあんまり変わらない？ その環境次第などところで変化するとしても、そこは考えるのが難しい。デジタルな方向にはいく。

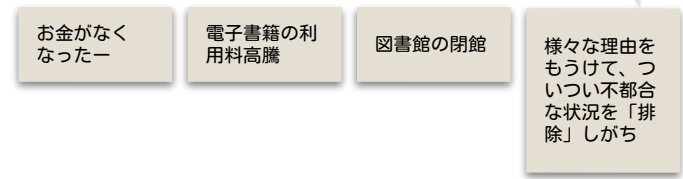
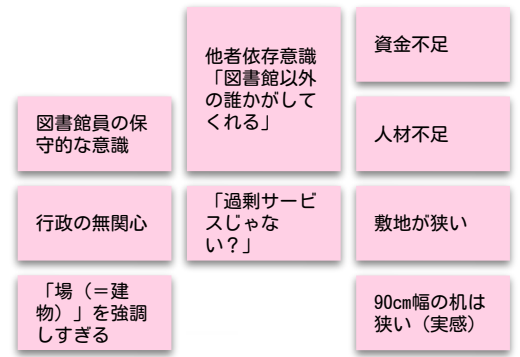


Parachute
阻害するもの

Engine
推進するもの

Bridge
解決策

Abyss
リスク



【10年後の図書館】

- * 知的好奇心を刺激され生きる私たち
- * その「個」の欲求を阻害しない
- * 多様なライフステージと「個」の出会い
- * ICTやWeb、設備や空間などアプローチはさまざま検討できる
- * 「想像力」
- * 「異なるものを受け入れる機会」
- * 「信頼」
- * 本や情報で遊ぶ場所が図書館
(来館者はそれを「学習者」として見てほしい・図書館に意識を寄せる人たちは広く学び手である)
- * 日々の図書館の活動がワーク(実践事例)を積み上げていく = 基本

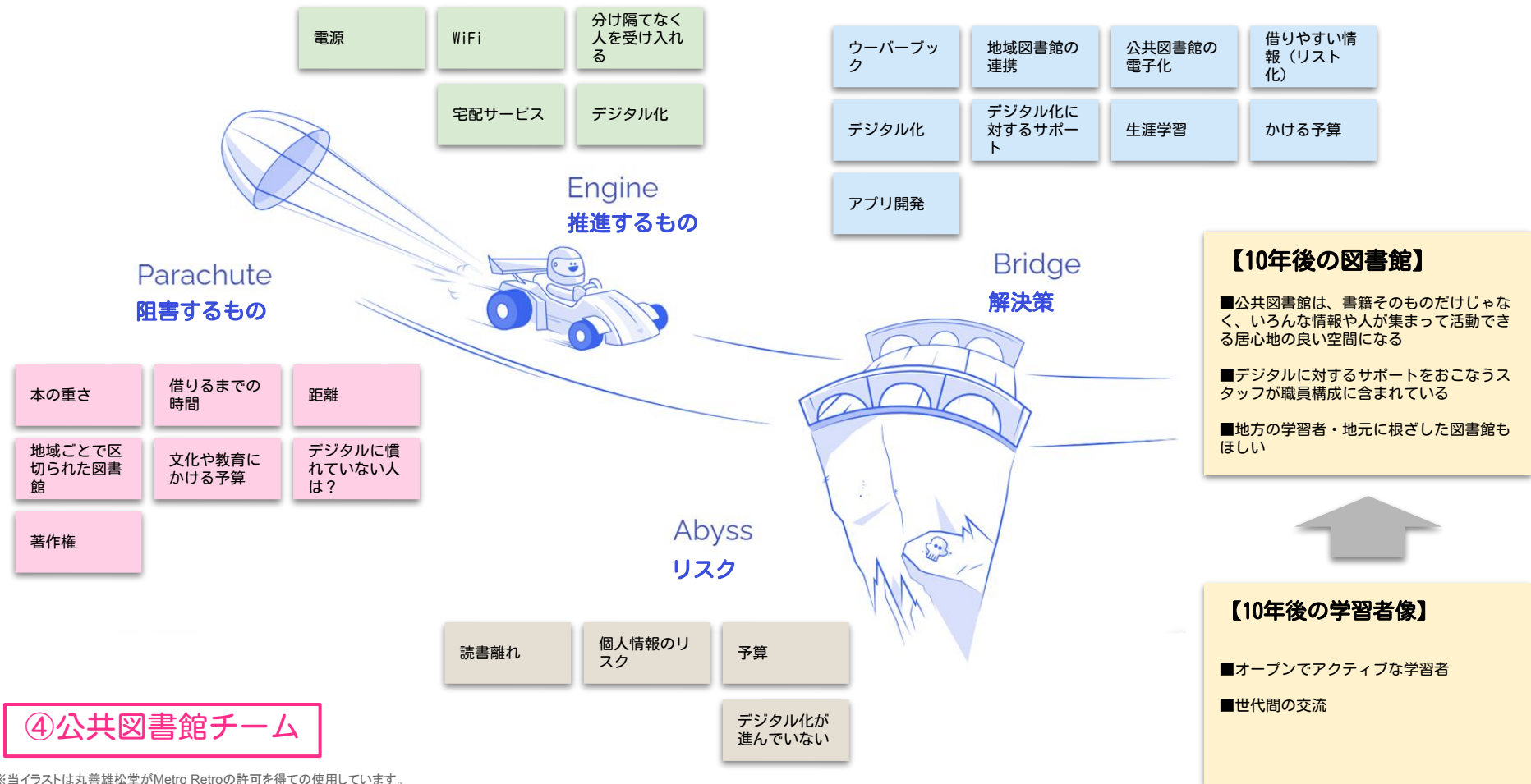
【10年後の学習者イメージ】

学習者だけの？「学ぶ」ことの前ってなんだろう？
(意識的な学び・無意識な学び)

学習の本質は変わらない
利用者にとっての「学び」とは？
地域は子どもらの成長(学び)と連関する

③公共図書館チーム

※当イラストは丸善雄松堂がMetro Retroの許可を得ての使用しています。
Metro Retro - the best remote retrospectives - <https://metroretro.io/>



※当イラストは丸善雄松堂がMetro Retroの許可を得ての使用しています。
Metro Retro - the best remote retrospectives - <https://metroretro.io/>

デジタル環境
の整備

デジタルの低
価格化

デジタル教材
充実

デジタル推進
教育

6G

個別最適学習
の浸透

世界に開かれ
た大学

学生・若い世
代への信頼感

セミナー

図書館資料の
デジタル化・
オープン化

学年・学校に
とらわれない
学び

地域を離れた
コミュニティ
形成

グループ
ミーティング

オンラインの
学習環境の整
備

どんな学びに
でも答えられ
るコンテンツ
→相互協力

学習者のニ
ーズに対応で
きる図書館ス
タッフの育成

図書館員が人
をつなげる能
力をもつ

Parachute
阻害するもの

Engine
推進するもの

Bridge
解決策

Abyss
リスク

紙へのこだわ
り

リアルでの人
間的な成長

金銭的な格差

地域格差

著作権問題

政策決定層の
価値観の膠着

日本の（経済
的・政治的）
国力低下

デジタル
（E J）が高
い

コミュニケー
ションの不在

変わらない図
書館員の意識

⑤大学図書館チーム

戦争

大学淘汰

格差

各自のオンラ
インは確保で
きるのか

多様性を欠い
た政策

デジタルに対
応できない
（苦手）な学習
者の脱落

疎外

不寛容な社会

【10年後の図書館】

デジタルへの対応

- ・学習者・提供者へのセミナーは必要。環境の整備
- ・図書館スタッフの育成
- ・意識・変化できる人、多様なスキル、つながりを作る
- ・地域に開かれた図書館・コミュニティ
- ・多様な人々との協働で大学を活性化。
- ・どこでも学べる図書館、距離感を越える本をもっている強みを生かす
- ・バーチャルな図書館
- ・図書館の相互協力（ILL無料）O A
- ・研究サポート／学習サポート
- ・デジタル化が進まない部分へのフォロー

【10年後の学習者イメージ】

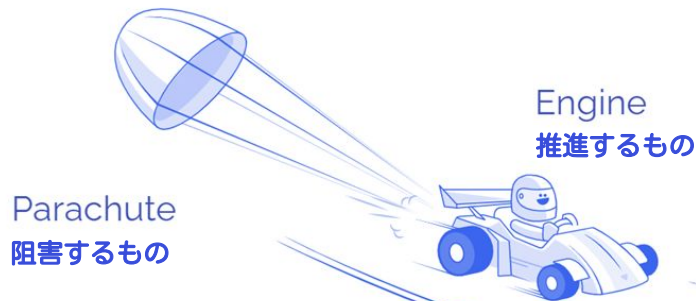
デジタルネイティブ・G I G A スクール世代

格差社会（学習できる人・できない人）

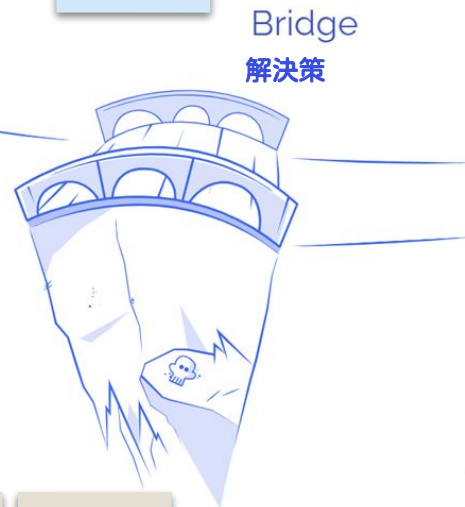
意識高い課外解決型の学びと掘り下げ型の学び

図書館員の情熱	横のつながり 司書に限らずに	AI	連携（例：生涯教育）	電子書籍
電子化	人脈	人とAIの協働	技術の進展	ギガスクール

身近なところから動く	InputとOutput
OPAC	楽しさ
なんとかなるさという精神	とりあえずやってみようという実行力
クラウドファンディング？	



閉鎖的な環境	組織の硬い考え	
予算・資金面	誤った情報	消極的な姿勢 ・保守的な考え
災害	語学力	妥協



Abyss
リスク

学習環境の格差		
ネットだけで情報を得る＝図書館を必要とっていない学生	出版社の倒産	災害
思いがけない横槍	著作権	デジタルデバイス

⑥大学図書館チーム

【10年後の図書館】

- 決めるためのツール・環境が整っている
- AI搭載方のOPAC、AI受付、資料の管理作業が少なくなる、BYの管理効率上がる、読書履歴の集約分析ツール、新書マップに生の声やAIを加える
- 効率が上がって手が空いた司書がファシリテーター＝ガイド役として機能、選択肢の一手手前のガイド役（ライティングセンターとの連携）
- 先輩のプレゼンも見れるようにアーカイブする
- OPACからいろんなツールにアクセス
- データベースとの断絶
- AIの学習を司書のノウハウをベースに
- 一つの大学にクローズしない
- お金を掛けずにできるコト
- コンソーシアム

【10年後の学習者イメージ】

【現在】選択肢がたくさんある→不安
【未来】選択肢を自主性をもって決められる人、正解探しではない学び、AIがいる環境